

在スロバキア日本国大使館

政治・経済月報（2013年11月）

目次

内政

- ◆統一地方選挙の結果 2
- ◆政府、タックス・ライセンスの支払額を決定 6

外交

- ◆欧州議会における来期 EU 予算の承認 6
- ◆フィツォ首相の訪米 7
- ◆ブルガリア大統領のスロバキア公式訪問 7
- ◆「V4 + 日本」外相会合 8
- ◆シンガポール大統領のスロバキア訪問 8
- ◆フィツォ首相の中国・中東欧サミット出席 9
- ◆ライチャーク外相の韓国公式訪問 9

経済

- ◆国内大手銀行の増益 11
- ◆IBM、ブラチスラバ・サービスセンターの増員を計画 12
- ◆国内工業生産の回復 12
- ◆スロバキアの来年の構造赤字拡大幅、ユーロ圏で最大に 12
- ◆政府、若年層を対象に1万5000名の雇用創出を計画 13
- ◆ウクライナへのガス逆移送、来秋にも実現の可能性 13
- ◆コシツェに過去最大規模の建設投資計画が浮上 13
- ◆中国企業による水力発電所建設の可能性 14
- ◆主要経済指標：2013年10月 15

内政

◆統一地方選挙の結果

9日および23日、スロバキアにおいて統一地方選挙（県知事選挙、県議会選挙）が行われた。結果の概要は以下のとおり。

第一回目投票（9日）

9日、県知事選挙の第一回目投票および県議会選挙が行われた。

1. 県知事選挙

(1) 政権与党「方向・社会民主主義」(Smer)の支持候補は、全8県中3県(ジリナ、プレショウ、トレンチーン)で過半数の票を獲得し、第一回投票で当選を決めたほか、4県(トゥルナバ、ニトラ、バンスカー・ビストリツァ、コシツェ)で得票率1位となり、2週間後の23日に行われる得票率上位2名による決選投票に進んだ。

(2) 首都ブラチスラバを含むブラチスラバ県では、中道右派の野党連合(スロバキア民主キリスト教連合・民主党(SDKU-DS)、キリスト教民主運動(KDH)、「架け橋」(Most-Hid)、「自由と連帯」(SaS)等)が支持する現職のプレショ氏(SDKU党首)が48%強の票を獲得した。Smer支持のフラシーコヴァー・ベニョバー候補は2位ながら24%の得票に留まった。なお、Smerは、ブラチスラバ県において唯一、自党が支持する候補者が最多得票とならなかった。

(3) バンスカー・ビストリツァ県においては、現職のマニュカ氏をSmerとKDHが支持し、SDKU、Most-Hid、SaSが元労働相のカニーク氏を支持したことで、野党連合が分裂する事態となった。この結果、マニュカ氏が49%の票を獲得して1位となったものの、2位には21%を獲得したロマン排斥運動で知られる極右活動家のコトレバ氏が入り、決戦投票に進んだ。

2. 県議会議員選挙

(1) 各政党の獲得議席数は以下のとおり(括弧内は前回2009年選挙の結果)。

Smer : 161 (138)

KDH : 57 (51)

ハンガリー人共同党(SMK) : 37 (40)

SDKU : 32 (58)

Most-Hid : 17 (2)

SaS : 9 (1)

その他の政党：23（－）

無所属：73（55）

（2）与党 Smer は、前回選挙を上回る 161 議席を獲得、全議席の約 40% を占めた。ブラチスラバ県以外の全ての県議会でも第 1 党。トレンチーン、ニトラ、バンスカー・ビストリツァ、プレショウの各県においては過半数の議席を獲得。一方、ブラチスラバ県では 1 議席のみの獲得に留まった。

（2）野党では、KDH が善戦し、Most-Hid（穏健派ハンガリー系政党）が躍進した一方、SDKU は大きく退潮。ブラチスラバ県では野党連合が安定した支持基盤を維持するが、ニトラ、トゥルナバ、バンスカー・ビストリツァでは野党への支持は弱かった。経済的新自由主義を標榜する SaS が獲得した 9 議席のうち、7 議席はブラチスラバ県であった。

（3）国会に議席を持たない政党では、ハンガリー系政党の SMK が、ハンガリー系住民の多いトゥルナバとニトラで一定の支持を獲得し、特にトゥルナバでは、Smer に続く第 2 党を占めた。ただし、同党は前回選挙から若干議席数を減らしており、57 議席を獲得した前々回と比較しても、明らかな退潮傾向が見られる。

3. 投票率

投票率の全国平均は 20.11% と低調であった。投票率が最も高かったのはバンスカー・ビストリツァ県（24.6%）、最も低かったのはトレンチーン県（17.4%）であった。

県知事決選投票（23日）

23日、9日の投票で当選者の確定しなかった 5 県において県知事選挙決選投票が行われた。

1. 結果

（1）投票が行われた 5 県中、ブラチスラバ県を含む 4 県で第一回投票の最多得票候補が順当に勝利した。与党 Smer の候補者である現職のマニユカ氏とロマン排斥運動で知られる極右活動家のコトレバ氏の対決となった中部のバンスカー・ビストリツァ県では、一部野党がマニユカ氏支持に回ったにもかかわらず、大方の予想を覆し、コトレバ氏が逆転勝利した。

（2）この結果、第一回投票で当選を決めた者を含めると、全 8 県中 6 県を与党 Smer 派の知事が占めることとなった。上記コトレバ氏を除くと、野党は、唯一、首都ブラ

チスラバを含むブラチスラバ県において SDKU のフレッシュ党首が再選を果たし、知事の座を維持した。

(3) 投票率の平均は 17.29% となり、低調であった第一回投票の 20.11% を更に下回る結果となった。

2. 政府反応

(1) ガシュパロヴィチ大統領

(Banska Bystrica 県知事選挙の結果に驚いている。これは政治家に対する「国民が長く苦しんでいる問題に無関心であることを止めるべき」という警告であると受け止めている。

(2) フィツォ首相

(決選投票を前に マニユカ 候補を明確に支持しなかった野党 SDKU と SaS を批判した上で) コトレバ氏の得票のかなりの部分は、右派支持者が「Smer を勝たせない」というためだけに投じたものである。右派にとっては、自身を反キリスト主義者、悪魔、ヒトラー、ムッソリーニと呼ぶ者の方が Smer より望ましいということである。この(ロマ人の)問題については、常に安易な解決策を提示する者が利するのである。

3. 主要紙による論評

(1) プラウダ紙

今回の統一地方選全体の勝者は(8県中)6県の県知事選およびブラチスラバ県を除く県議会選で勝利した Smer であるが、Banska Bystrica 県の結果はその印象を薄くした。

政治学者のホルスキー氏は「スロバキアの政治エリートがこれまで政治的過激主義を制御せず、その社会全体にとっての有害性を考慮してこなかった。伝統的な諸政党は、現在スロバキアまた世界中で新たな現象としての“反政治 (antipolitika)” が台頭しつつあるという事実について無自覚である」と批判している。

政治家たちが極右の勝利を予想していなかった事実は、コトレバ候補が 2 位となった第一回投票の結果に対する彼らの反応が証明している。フィツォ首相は「党内に動揺は存在せず、いかなる過激主義も左派政治を打ち負かすことはない」と述べていた。野党 SDKU のフレッシュ党首及び SaS のスリーク党首は、与党 Smer との対決を優先するあまり、決選投票においても マニユカ 候補への支持を表明しなかった。これらの政治家たちは、コトレバの勝利が明らかとなった現在、互いの不作為を非難し合っている。

(2) スメ紙

(ア) コトレバ勝利の要因は、左派に対する反感でも、また右派に対する反感でもない。むしろ、それらの党派を主導するエリートに対する憎悪、無力感、怒りの混合の結果である。そのことをまず認識する必要があるのは、フィツォ首相である。まさに彼がコトレバに対して扉を開いたのである。それは、フィツォ首相がマニユカ候補の選挙よりも自身の（大統領）選挙についてより多く考え、またここ数年の間、全国を完全に支配し、その所有者であるかのように振る舞いはじめたからという理由だけではない。フィツォ首相の最大の罪は、彼の政治手法—確実に迅速な解決を約束し、実際には何もできない—が、あのコトレバと同一のものであるという点にある。これはしかし、決してフィツォ首相のみの問題ではない。全ての人々が（決選投票の行われた）土曜日よりもかなり以前に過ちを犯していたのである。この傾向が更に広がるまでに多くの時間はかからない。

(イ) 選挙分析の専門家であるマドレニャーク氏は「コトレバは Smer の敗北を狙う野党支持者の票のおかげで当選した」とするフィツォ首相の主張には疑問が残るとしている。同氏によれば、コトレバ候補が決選投票において大幅に伸ばした得票には、野党支持者の票だけでなく、長年にわたり Smer の票田であった地域の票も含まれている。例えばマニユカ候補の牙城であったズヴォレン郡におけるコトレバの獲得票は、第一回投票では 2 0 0 0 票程度であったのが、決選投票では約 6 6 0 0 票に増加した。同様に、ブレズノ郡では 7 0 % 以上の票を獲得した。これらの地域では、前回の国政選挙ではフィツォが、更にそれ以前ではメチアル元首相やスロタ・スロバキア民族党党首（いずれも強烈なカリスマ性で知られた政治家）が多くの支持を集めていた。社会学者のスロシアリク氏によれば、コトレバ候補は主として貧困問題やロマ問題を解決できない政治家に失望した人々からの支持を得たという。また同氏は、今後与党 Smer がロマ人に対して“若干の厳しさ”を示すことでコトレバの人気の伸長を抑えようとするがあり得る、EU を怒らせないためにも、あからさまに強硬な措置がとられる可能性は無いだろうとしている。

(3) 経済新聞

コトレバ候補が県知事選挙で勝利したのは、彼がその過激さで他の者を凌駕し、不満を募らせた少数の人々の代弁者となったからである。ある人々は、彼をロマ人問題解決のための保証として、また別の人々は、腐敗した地方政治に新風をもたらす外来者として、更に別の人々は、期待される変化の体現者として受け入れた。コトレバ候補は、全体主義から民主主義を、ファシズム時代や社会主義時代のスロバキアから現

在のスロバキアを分かつ諸価値に対する現実的な政治的選択肢となった。7万1000人以上の人々が、他に有効な選択肢を見出せなかったがために、コトレバの人種主義的側面に注意を払わずに彼に投票したのである。

◆政府、タックス・ライセンスの支払額を決定（12日付各紙）

政府は、来年から導入を検討しているタックス・ライセンス（収益の有無にかかわらず、全ての企業に課される新税）について、これまで未定であった支払額を決定した。それによれば、①売上高が50万ユーロ未満で付加価値税納税義務を免除されている企業には年480ユーロ、②売上高が50万ユーロ未満の付加価値税納税企業には年960ユーロ、③売上高が50万ユーロ以上の企業には年2880ユーロのタックス・ライセンスが課される。それぞれ対象となる企業数は、①約5万社、②約8万4000社、③約2万4000社である。タックス・ライセンスの徴収は、課税対象年の翌年に行われる。法人税納税額がタックス・ライセンス支払額を超える企業については、前者から後者が控除される。

外交

◆欧州議会における来期 EU 予算の承認

20日、フィツォ首相はバージュニ副首相と共に記者会見を開き、欧州議会における来期 EU 予算の承認に関する以下の説明を行った。

1. 19日の欧州議会において、来期2014年～2020年のEU予算が承認された。スロバキアへの割当額は140億ユーロで、今期（2007年～2013年）より20億ユーロ増加した。スロバキアは、新たなEU予算期間内に、6つの運用計画（研究開発、インフラの整備統合、教育・人材開発、環境改善、地域開発、行政効率化）を有する。バージュニ副首相によれば、これら全ての計画は、承認に向けた準備がほぼ整っている。同副首相は、スロバキア政府とEUとのパートナー協定は2014年1月にも承認される見通しであると述べた。フィツォ首相によれば、来期EU予算は、特に若年層の失業率改善のために優先的に使用される。

2. 欧州議会は20日、スロバキアに割り当てられた今期EU基金の使用期限（2015年）の1年延長についても承認した。フィツォ首相によれば、これにより5～6億ユーロが確保される。EU基金使用期限の延長は、今回スロバキアとルーマニアに例外的に認められた。

◆フィツォ首相の訪米

21日、フィツォ首相はライチャーク副首相兼外務・欧州問題相及びカリニャーク内相と共に訪米し、ホワイトハウスにてオバマ大統領およびバイデン副大統領との会談を行った。

オバマ大統領とフィツォ首相は、米・スロバキア関係は共通の民主主義的な価値と原則に基づいている点を確認した。フィツォ首相は、20年以上にわたる中欧の民主的変革プロセスにおいて米国が果たした重要な役割に言及した。両者は、「統合された、自由かつ平和な欧州」の構築、また北アフリカからアフガニスタンにかけての地域的安全保障の強化に向けた、確固たる意志を確認した。

フィツォ首相とバイデン副大統領は、アフガニスタンにおける国際治安支援部隊（ISAF）活動の枠組みにおける米・スロバキア共同の取り組みについて、同部隊の任務終了期限である2014年以降の治安維持活動へのスロバキアの関与を含めて協議を行った。フィツォ首相はこれに関し、スロバキアにはアフガン軍の訓練を支援していく用意がある旨述べた。両者はまた、シリアにおける化学兵器使用の廃絶に向けた国際的取り組みの前進を確認した。フィツォ首相は、スロバキアもまた、化学兵器廃絶を支援していく用意のある旨強調した。フィツォ首相は、EUの枠内において価値を増しつつある、V4諸国の地域的協力関係の意義を強調した。両者は、環大西洋貿易・投資パートナーシップの実現により、大西洋の両岸に新たな雇用機会と経済成長支援をもたらす必要性につき合意した。

フィツォ首相によれば、会談では米情報機関NSAによる盗聴スキャンダルも話題となった。フィツォ首相は、米国とEUのサミットを早々に実現し、相互の盗聴問題の解決モデルを見出すためにも、このスキャンダルの影響を払拭する必要性につき言及した。

◆ブルガリア大統領のスロバキア公式訪問

5～6日、プレヴネリエフ・ブルガリア大統領がスロバキアを公式訪問し、ガシュパロヴィチ大統領、フェツォ首相等と会談を行った。

ガシュパロヴィチ大統領は、プレヴネリエフ大統領に対し、両国間の友好関係の良さを指摘した上で、経済分野において更なる協力の強化が期待できる旨述べた。この点、2012年の両国間貿易額は4億3千3百万ユーロにとどまっており、ガシュパロヴィチ大統領は、エネルギー、建設、インフラ等の分野にて、スロバキアの企業がブルガリア進出に関心を有しており、また情報技術分野においても、両国間の協力

の可能性がある旨述べた。また、スロバキアは、ブルガリアのシェンゲン加盟を支持している点強調した。プレヴネリエフ大統領は、情報技術が両国間の協力において最も重要な分野の一つとなる旨述べ、ブルガリアでは過去5年間で、同分野において3万5千人の雇用がなされた旨強調した。また、自動車産業分野における協力にも関心を有している旨述べた。この点、ガシュパロヴィチ大統領は、スロバキアの輸出の内、7割を自動車産業が構成している旨述べた。

◆「V4+日本」外相会合

11日、インド・デリーにおいて、「V4+日本」外相会合及び岸田外務大臣とライチャーク外務・欧州問題相との二者会談が行われた。

各外相は、11年に亘る「V4+日本」協力が多方面における関係強化に貢献したと評価した。この協力を更に強化する目的で、2014年をV4と日本の交流年とすることにした。この関連で、各国の親善大使が紹介され、スロバキアの親善大使は科学者のヴラジミール・ブジェク氏が務めることとなった。スロバキアは「V4+日本」において、日本と科学技術分野で二国間あるいは多国間の協力を拡大することに大きな関心を有している。ライチャーク大臣は会合の冒頭においてスロバキアの科学技術分野における目標・関心につき発言し、更に次期V4議長国としての「V4+日本」協力における優先課題を紹介した。各外相は、この他、東方パートナーシップ諸国及び西バルカン諸国に対する開発協力、エネルギー安全保障、気候変動について話し合った。また、会合では、シリア、エジプト、イランの問題や東アジア情勢等の国際情勢も取り上げられた。

ライチャーク大臣は、引き続いて岸田外相との二国間会談を行った。外交関係樹立20周年を祝う雰囲気の中、会談では経済及び科学技術分野における協力と投資が主要テーマとなった。両外相は、複数の分野におけるこれまでの協力を評価した他、社会保障協定や国際機関選挙における相互支持についても話し合った。

◆シンガポール大統領のスロバキア訪問

14日から18日にかけて、トニー・タン・シンガポール大統領夫妻がスロバキアを訪問し、ガシュパロヴィチ大統領およびライチャーク副首相兼外務・欧州問題相と会談を行った。

16日、ライチャーク大臣はトニー・タン・シンガポール大統領夫妻を迎えて晩餐会を催した。ライチャーク大臣は晩餐会において、「今回のシンガポール大統領による

初めてスロバキア訪問は、二国間関係発展に向けた両国の関心を示すものである。我々はシンガポールを多文化社会の良きモデルであり、また、小国が外交において重要な役割を果たしうるといふ証明であると認識している。」と述べた。更にライチャーク大臣は、貿易・経済面での協力の一層の強化への関心に言及し、その関連でスロバキア・シンガポール・ビジネスフォーラムの開催を歓迎すると共に、ビジネスマン同士のより密接な交流や EU とシンガポールの FTA が両国間の貿易・投資の発展につながることに期待を表明した。また、ライチャーク大臣は、ASEAN が東アジア統合プロセスの原動力であるとの認識を示し、その役割を評価すると共に、EU と ASEAN の協力深化を支持する旨述べた。

18日の会談において、ガシュパロヴィチ大統領は EU とシンガポールの FTA が両国のより密接で双方に有益な経済協力を可能とすると述べた。更にガシュパロヴィチ大統領は「シンガポールはいくつかのテクノロジー分野の研究においては世界をリードしている。」と述べ、スロバキア・シンガポール・ビジネスフォーラムの開催や科学技術分野での協力発展、学生交流の拡大、文化面での協力進展を評価した。トニー・タン大統領は、スロバキアの独立20周年を祝い、二国間関係の現状を評価すると共に、EU とシンガポールの FTA 署名に対するスロバキアの支援に感謝した。また、トニー・タン大統領は、両国間の市民交流促進を希望し、観光分野における協力深化の可能性に言及した。更に同大統領は「スロバキアはシンガポールを南東アジアへの入口として、同様にシンガポールのビジネスマンはスロバキアを欧州市場への入口として活用できると考える。スロバキア経済は非常に競争力があり、この機会を是非生かしていきたい。」と述べ、両国のビジネスマンの交流や科学技術分野における協力の現状を評価した。

◆フィツォ首相の中国・中東欧サミット出席

26日、フィツォ首相はブカレストにおいて開催された中国・中東欧サミットに出席、李克強・中国首相との二国会談を行った。

会談の主要テーマとなったのは、スロバキアにおける中国系銀行の支店開設、インフラ整備プロジェクトの支援、共同の中小企業の設立、エネルギー・環境保護・イノベーションへの投資であった。

1. 二国会談の内容

(1) フィツォ首相は、両国間の経済協力促進のための具体的手段の一つとして、スロバキアにおける中国系銀行の支店開設に言及した。フィツォ首相によれば、それに

より中国の投資企業がスロバキアでの金融パートナーを得ることになれば、スロバキアに対する彼らの信用獲得に結びつくという。

(2) フィツォ首相は、中国側に対し、貿易促進のための中国政府機関の代表部をスロバキアに開設する公式の申し入れを行ったことを明らかにした。フィツォ首相によれば、中国側もこれを検討しているという。

(3) 両首相は、スロバキアにおける大規模水力発電所の共同建設、また中国から欧州への商品輸送拠点としてブラチスラバ空港を活用する可能性について話し合った。

(4) フィツォ首相は、李首相に対し、同首相の来年のスロバキア訪問及び、両国の企業関係者の接点の場としてのスロバキア・中国経済フォーラムの開催を提案した。

2. 経済関係者の参加

ブカレスト・サミットには、約30名の企業家がスロバキアの代表として参加した。フィツォ首相は、中国向けビジネスの例として、軽飛行機（グライダー）製造、ワイン及び高品質加工食品の輸出を挙げた。

3. その他

フィツォ首相は、今回のサミットに際し、2015年の中国・中東欧サミットをスロバキアで開催し、特に投資問題をテーマとする提案を行ったことを明らかにした。昨年ワルシャワ・サミットで中国側から中東欧諸国に提示された100億ドルの融資については、各国が同融資から利益を得るべきであるとしながらも、中国政府が融資に際して国家による補償を要求しているのは、同融資がむしろ私企業に適したものであるために問題であり、中国側に条件の緩和を求めていくとしている。

◆ライチャーク外相の韓国公式訪問

25日及び26日、ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相は韓国を公式訪問し、尹・韓国外交部長官との会談等を行った。

1 外相会談

(1) 25日に行われた外相会談において、ライチャーク外相と尹長官は、両国間の政治的対話及び経済協力の促進につき協議した。両外相は、両国関係の良好さを高く評価し、その更なる発展、特に経済・投資分野における協力促進への関心を確認した。ライチャーク外相は、尹長官に対し、外国企業のための良好な投資環境創出に対するスロバキア政府の関心につき明言した。

(2) 両外相は、朝鮮半島及び周辺諸国の安全保障問題についても話し合った。ライチャーク外相は、朝鮮半島問題の平和的な解決に向けた韓国政府の努力を支持する旨強調した。その他、国連安保理事会の改革問題等についての協議が行われた。

(3) 両外相は、科学技術協力に関する両政府間協定に署名した。同協定は、両国の大学、研究機関、学術団体等の直接的な交流を通じた、科学技術分野における協力と情報交換の支援を目的としている。両外相はまた、貿易・投資及び文化・スポーツ・教育・観光分野における交流に関する相互の意見交換について規定した、外務省間協力に関するメモランダムに署名した。

2 その他のプログラム

(1) ライチャーク外相は、今回の訪問の間、スロバキアにおける重要な投資企業である起亜自動車及びサムスン電子の代表者との会談、欧州とアジアの関係強化に関する韓国外国語大学校での講演、釜山市において26日に開催された「韓国・スロバキア貿易・投資フォーラム」への出席、釜山のスロバキア名誉総領事館の開館式への出席等の日程をこなした。

(2) ライチャーク外相は「貿易・投資フォーラム」の冒頭スピーチにおいて、現在90社以上の韓国企業がスロバキアに投資を行っていること、韓国はスロバキアにとって6番目の貿易相手国であり、昨年の貿易額は55億ユーロに達したこと、スロバキア政府は現在、投資・ビジネス環境の向上に懸命に取り組んでいることに言及した。

経済

◆国内大手銀行の増益 (4日付「経済新聞」)

フィツォ政権による臨時課税にも関わらず、スロバキア国内大手9行 (Slovenská sporiteľňa、VÚB、Tatra banka、Poštová banka、ČSOB、UniCredit Bank、Sberbank、OPT Banka、Prima Banka) の今年1月～9月の利益は、昨年同時期と比べて合計で約5000万ユーロ増加したことが明らかとなった。同様に、融資総額は9%、手数料収入は4.3%の増加を記録した。国内融資需要の高まりに加えて、欧州中央銀行(ECB)が長引く経済危機への対応策として導入した0.5%の低金利政策が、結果として国内銀行の増益に寄与する形となった。ECBの低金利政策に伴い、国内大手銀の支払利息は昨年から18%低下した。ČSOBのある幹部によれば、国内大手銀の増益傾向は今後も継続する見通しであるという。

◆IBM、ブラチスラバ・サービスセンターの増員を計画（7日付「経済新聞」）

米 IT 大手 IBM の関係者は「経済新聞」に対し、来年中にブラチスラバ・サービスセンターの従業員を 500 名増員する計画を明らかにした。増員数は、更に拡大する可能性もあるという。ただし、同社の広報は、この増員計画についてコメントを避けている。IBM のスロバキアにおける雇員数は今年 5000 名に達し、同社は国内最大の IT 企業となっている。同社は、ブラチスラバにおいて、特に高等教育修了者を雇用対象としてきた。しかし、今後は十分な数の人材を確保することが困難になりつつあるという。IBM 以外の IT 企業も常に人材確保に取り組んでおり、ある専門家によれば、現在 IT 産業全体で 1000 名から 2000 名の新規雇用者が必要とされている。スロバキアにおける IT 産業従事者の数は、2012 年に 5 万 4000 名以上に達している。

◆国内工業生産の回復（12日付「スメ」）

本年 9 月の国内工業生産高は、西欧の需要回復に支えられて前年同月比で 9.9% 増加し、経済危機後の回復傾向を明確に示した。これは、昨年 11 月以来最大の伸び率であり、今年 1 月からは 4% 上昇している。生産拡大に特に寄与したのは、電気機械設備、金属工業、繊維工業である。自動車工業は、緩やかな増加であった。一方、エネルギー工業生産は減少を記録した。

統計によれば、工業生産を引き上げたのは、小売部門からではなく、他の製造業者からの需要である。製造業への中間的な原材料供給部門の生産高は、より急速な伸びを記録している。これは、スロバキアの製造業者が、欧州工業全体のサプライヤー網の中に組み込まれていることに起因する。例えば欧州における自動車販売は、一旦底をついた後、ようやく回復傾向を示しつつある。ある銀行アナリストは、工業生産高の伸長は、ユーロ圏全体の経済再生とかなりの程度結びついている、と指摘する。

◆スロバキアの来年の構造赤字拡大幅、ユーロ圏で最大に（14日付「スメ」）

欧州委員会による最新の予測は、来年のスロバキアの構造赤字（財政赤字から景気変動の影響と臨時収入を除いたもの）が GDP 比 0.8% の増加を記録すると見積もっている。これは、ユーロ圏 18 カ国で最大の拡大幅である。一方、スロバキア政府はより楽観的で、欧州委に提出した来年の予算案の中で、構造赤字の増加を GDP 比 0.2% と少なく見積もっている。政府関係者によれば、欧州委とスロバキア政府の見解の差異の原因は、スロバキア内務省が進めている行政システム改革による支出削減効果を、

欧州委が低く見積もっている点にある。独立の予算評価機関である責任予算評議会も、欧州委同様、来年予算に関して政府よりも悲観的な見方を示している。キャリアーク内相は、欧州委による予算評価について、「あくまでも予測であり、天気予報である。重要なのは結果である」と述べた。

◆政府、若年層を対象に1万5000名の雇用創出を計画（18日付「プラウダ」）

労働省は、2014年及び2015年に、EU基金及び国庫から供出される1億ユーロの補助金を利用した1万5000名の雇用創出を計画している。企業が、3ヶ月以上失業状態にある25歳以下の若者にたいして1年半の雇用を保証する場合、国からの給与補助として、1人あたり月額最大456.57ユーロが1年間支給される。残りの半年の給与については、全額企業の負担となる。こうした補助金の支給については、政府関係者が経済再生の手段として大いに有効であると確信しているのに対し、一部の経済専門家からは、企業が保証期間終了後に被雇用者を解雇する恐れがある、との指摘がなされている。

◆ウクライナへのガス逆移送、来秋にも実現の可能性（21日付「経済新聞」）

EUは現在、ガス供給を全面的にロシアに依存しているウクライナに対し、スロバキアを通じてガスを逆移送する計画を進めている。これにより、ウクライナは西側からより安価なガスを購入することが可能となり、時に大きなリスクを伴うロシアへの依存からの脱却に結びつくこととなる。逆移送計画に関与しているスロバキアのガス移送管理・運営企業 Eustream 社が「経済新聞」に明らかにしたところによれば、計画は来年秋にも実現する見通しである。

EUにとって、ガス逆移送計画の実現は、欧州企業にビジネス・チャンスをもたらす巨大なウクライナ市場獲得への足がかりとして重要な意味を持つ。また、歴史的にロシアとの結びつきが強いウクライナに対して、政治的影響力を強めたいという目算もある。一方で、スロバキアのガス供給企業 SPP は、ロシアのガスピロム社とガス価格引き下げを巡って交渉中であり、逆移送計画に関するスロバキアの立場は微妙なものとなっている。

◆コシツェに過去最大規模の建設投資計画が浮上（26日付「経済新聞」）

「経済新聞」が得た情報によれば、国際的土地開発企業の TriGranit 社は、コシツェに巨大多機能センターの建設を計画している。投資総額は、東スロバキアでは過去

最大規模の3億ユーロに上り、建設事業において約1000名の労働者、完成後には約3000名の従業員が雇用される予定。2015年に建設が開始され、その3年後に完成する見込みであるという。新多機能センターは、コシツェの中心街に隣接して建設され、商業、娯楽、スポーツ、オフィス、アパートメント等の各施設から構成される。建設予定地は現在コシツェ市の所有となっており、今後 TriGranit 社との間で土地購入を巡る協議が開始される。

◆中国企業による水力発電所建設の可能性（29日付「プラウダ」）

フィツォ首相は、ブカレストにおいて李克強・中国首相会談した際、スロバキアにおける新たな水力発電所建設をめぐって両国企業間の集中的なコミュニケーションが存在する旨明言した。ただしスロバキア経済省は、水力発電所がいつ、どこに建設され、どれだけの人々が雇用されるのか、といった問いに対して、現在のところ回答を避けている。バージュニ・投資担当副首相は、「プラウダ」による最近のインタビューにおいて、発電所の建設地候補としてイペル川（注：スロバキア南部を流れるドナウ川の支流）を検討していることを明らかにした。同副首相によれば、投資額は12億ユーロ程度になるという。

フィツォ首相はまた、中国企業によるスロバキアへの投資促進のために、中国系金融機関の支店をスロバキアに開設する必要性にも言及した。チェコ・プラハの Saxo 銀行の Piovarczy 頭取によれば、中国は欧州向けの投資全体の中で、スロバキアを含む新興国にも注目している。中国にとって魅力的な投資事業としては、EU 基金の支援を受けるインフラ建設計画、観光産業、農業等が挙げられる。水力資源への投資も、彼らにとっての長期的な関心事であるという。

フィツォ首相は、中国はスロバキアの軽飛行機製造、ワインおよび加工食品輸出に関心を有していると述べた。しかし Piovarczy 氏は、中国が今後、国内経済問題の解決に注力するために国外投資を制限していく可能性も排除できず、同国の市場メカニズム及び社会システムの改善努力を注視していく必要があるとしている。

◆主要経済指標：2013年10月

※出典：Štatistický úrad SR 及び EUrostat。為替レートについては Interbank Rate を使用
[\(http://www.oanda.com/\)](http://www.oanda.com/)

GDP 成長率（対前年同期比）

四半期	
1	0.6
2	0.3
3	0.2

平均賃金（ユーロ、月）

四半期	
1	789.0
2	818.0
3	803.0

消費者物価指数（対前年同月比）

月	総合	食料品価格	エネルギー価格	運輸・交通価格
1	2.4	5.9	0.2	0.8
2	2.2	5.6	0.1	0
3	1.9	3.5	1.0	-0.7
4	1.7	4.1	0.4	-1.7
5	1.7	4.4	0.4	-1.6
6	1.6	4.4	0.4	-1
7	1.5	4.3	0.3	-0.2
8	1.3	3.8	0.3	-1.1
9	1.0	3.1	0.3	-1.7
10	0.6	1.8	0.2	-2.3

失業率

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国	EU27 カ国
1	14.8	11.9	10.8
2	14.7	12.0	10.9

3	14.7	12.1	10.9
4	14.4	12.2	11.0
5	14.3	12.2	11.0
6	14.3	12.1	10.9
7	14.0	12.1	10.9
8	13.7	12.0	10.9
9	13.8	12.2	11.0
10	13.7	12.1	10.9

為替レート

月	1ユーロ／円
1	118.1
2	124.5
3	122.9
4	130.9
5	130.9
6	128.5
7	130.4
8	130.3
9	132.3
10	133.3

外国貿易（単位：100万ユーロ）

月	輸出	輸入
1	4,857.6	4,482.8
2	5,037.8	4,613.3
3	5,309.5	4,842.6
4	5,642.2	5,076.5
5	5,706.0	5,069.5
6	5,282.2	4,832.7
7	5,010.7	4,839.7

8	4,843.4	4,582.4
9	5,727.5	5,181.9
10	6,076.0	5,592.9

鉱工業生産指数（対前年同月比）

月	鉱工業総合	自動車工業	電子機器工業
1	106.4	115.5	79.1
2	101.0	108.0	96.2
3	100.9	102.3	103.3
4	102.8	105.1	101.9
5	102.8	102.6	92.9
6	102.9	101.2	99.0
7	102.2	95.4	110.2
8	104.4	108.0	98.9
9	107.5	103.5	96.1
10	106.8	107.7	99.0

景況感

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国
1	84.9	89.5
2	86.7	91.1
3	91.0	90.1
4	91.3	88.6
5	88.7	89.5
6	84.4	91.3
7	87.8	92.5
8	88.4	95.3
9	90.0	96.9
10	94.6	97.7